

## 『館野地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「館野地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 10名（小学校保護者3名・未就学児保護者4名・地区代表3名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
     [市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年6月26日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月17日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年11月28日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月16日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年2月1日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年2月8日	保護者説明会（PTA役員会へ周知依頼）
令和5年3月6日	保護者説明会（～令和5年3月31日まで意見聴取期間）
令和5年5月8日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月12日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月17日	館野地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年7月10日	館野地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）

(協議結果／保護者委員意見)

結 論

今後の児童数の減少を考慮すると、今以上の学校規模となるような学校再編を行うべきである。

(望ましい学校規模)

※ 最低限1学級15人以上を将来的にも維持できる規模とすべき。

※ 子供達がより良い学校生活を送るため、クラス替えが出来る学校環境を提供して欲しいが、その一方で教職員・児童・保護者がお互いの顔を認識し、それぞれ必要な関係性が築ける学校規模が望ましいため、学校規模の上限値は、国が示す標準的な学校規模(1学年②～③クラス)として欲しい。

理 由

- 1学年15人を下回る学校規模となると、友人同士で様々な経験をさせることの難しさ、男女比の偏り、学校内活動(実技教科での集団学習・グループ別活動等)における課題点などについて、保護者として懸念がある。
- 1学年4クラス以上のような学校規模(大規模校)となると、個々の子供の特性に応じた、きめ細やかな教育への不安があること、子供同士も6年間でお互いの友人を認識できない可能性も発生する。また、保護者と教職員、保護者間同士も距離感が発生し、必要な関係性が築けない懸念がある。
- 今後、少子化が進めば再度同じ議論をしなければならない。このようにきちんと議論する機会を契機と捉え、教職員の労働環境を含め子供達にとってより良い教育環境を提供するため、学校再編について前向きに取り組むべきである。

各委員の意見(クラス替え可能な学校規模を望む意見)

- 中学校では、大人数の中で学校生活を送ることとなるため、小学校のうちから一定規模での集団生活を経験させたい。【多数意見】
- 子供同士の間関係やトラブル等に配慮したクラス編制が可能となる。【多数意見】
- 教科担任制のメリットを享受できる。【多数意見】
- クラス替えを子供に経験させたい。(新しい友達との交友関係を広げて欲しい)【多数意見】
- 子供が社会に出た時には、必然的に多くの人達と接していかなければならない。そのような経験を小さいうちから体験させてあげたい。
- クラス替え可能な規模 or 単一学級、それぞれのメリット・デメリットがあり、保護者としては、どちらになっても許容可能な範囲と言えるが、学校運営全体を見た時には、クラス替えが可能な学校規模の方が良いと感じる。理由として、クラス替え可能な学校規模であれば、先生方の母数も増え、先生間同士での意見交換が可能となること、教科担任制の導入により子供達が様々な先生の授業を受けることが出来ること、授業の質を高め、先生方の働き方改革にも繋がる取組を行うことも出来る。それら日々多忙な現場の先生方の働き方を変え、幸せを感じて働いてもらえることが、そこで教わる子供の幸せにつながると思うため、先生方が働きやすい環境の学校に子供を通わせたい。
- 先生方の負担を軽減させ、より良い教育環境を子供達に提供させたい。
- 保護者(P T A)の負担軽減が図れる。

- 現状においても、一部の学年にて 15 人を下回る学級規模となっており、子供の様子からも友人関係の少なさを感じている。
- 地域から学校が無くなるのは悲しいという“想い”は、当然理解できますが、世の中の少子化の流れのなかで、全国で学校の統廃合が行われているのも事実であり、想いとは別に現実的な課題（子供達の教育環境、学校維持運営のコスト等）を踏まえて判断すべきと思う。

**各委員の意見（現状の学校規模（クラス 20 人規模）を望む意見）**

- 今の学校規模（学年あたり約 15～30 人）を含めた学校運営に、満足度が高い。その理由として、個々の子供の特性に応じた、きめ細やかな教育を行ってもらえている感じがあるため。
- 少人数の小さな世界でも、子供達が楽しそうに学校生活を送っている様子が見られ、現在の学校環境に対しデメリットが感じられない。
- 現在中学校に通学している子供の意見として、館野小学校の仲間・絆があることが心強いとのことであった。
- 人前で話すことが苦手な子供は、少人数で発表機会が多い方が良いと思う。
- 先生と保護者の距離感が近く、気軽に相談しやすい環境である。